

理念

生命を安心して預けられる病院 健康と生活を守る病院
「あなたとあなたの家族によりそう」「安全 快適 自己実現」



医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院

広報誌

よりそう

vol. 33



新病院は良い敷地と優れた工事関係者の皆さんに恵まれ、完成を迎えました。
一層、徳洲会の原点である“生命だけは平等だ”を具現化し、職員一丸となって
地域の皆様によりそった医療を提供していきます。



仙台徳洲会病院に新しい 新築移転による病院機能



呼吸器内科



氏名：海老名 雅仁

東北大学医学部を卒業後、呼吸器内科としての臨床指導を受けながら、病理学部門で「難治性気管支喘息患者の気道平滑筋の病態」で博士課程を修了。その後ボストン大学で今話題の「肺内分泌細胞」で2年、「米国国立癌研究所」(NCI)で「肺がん関連遺伝子変異の分布」で3年費やし、1995年に帰国。以後は、特発性肺線維症を中心とする難治性の「びまん性肺疾患」と「気管支喘息」の診断と治療に特化した診療に従事してきました。特技はそれで、「難治性呼吸器疾患の診断と治療」で、趣味と実益も兼ねています。そのほか、園芸、古典音楽、昔の映画、歴史関連、時々声に出て読む藤沢周平や山本周五郎とか、最近では直木賞の「黒牢城」も気に入っています。読み終えるのが惜しい段階です。仙台徳洲会病院に赴任したのは、「治療はおずかしい」と言われ、各地で難民化している難治性呼吸器疾患の患者さんを救うためです。宜しく御願い致します。

歯科口腔外科



氏名：松原 陵太

趣味：

- ・旅行（ドライブ大好きで北海道一周しました。）
※長距離ドライバー任せて下さい。
- ・映画鑑賞 ・格闘技観戦 ・ランニング ・読書
※結構いろいろなものに興味を持つので、どんな話でもしてくれたら嬉しいです。

今後についてコメント：

東京、神奈川、長野と研修含め様々な場所で研鑽を積ませて頂きましたが、大学が福島なので久しぶりに大好きな東北の地に戻ってきました。仙台の魅力を体感しながら、患者さんに誠心誠意の医療を提供できる様、心掛けています。宜しくお願いします。

仲間が加わりました。 強化のため、106名が入職。



研修医

初期研修医 1年次 2名入職しました

基幹型臨床研修指定病院の役割として、今年度は初期研修医2年次3名・1年次2名の研修医を育成してまいります。



氏名：羽立 謙

出身大学：金沢医科大学

特技、趣味：

釣り、サッカー、バイク、ピアノ、温泉めぐり、アウトドア、スポーツが好きです。

今後についてコメント：

この2年間で仙台の色々な場所へ行って、たくさんの思い出を作りたいです。

仕事も全力でがんばります。宜しく御願い致します。



氏名：金子 雄哉

出身大学：産業医科大学

特技、趣味：

福岡県出身です。大学ではラグビー部に所属していました。趣味は旅行、映画鑑賞、マンガ、筋トレなど色々です。

今後についてコメント：

初期研修の2年間、一生懸命頑張りたいと思います。宜しく御願い致します。



最新機器

MRI

**より高速、より快適に。
患者様中心の検査環境を提供します。**

新しいMRIは従来の機器に比べ高画質、高速撮影はもちろん患者様が望む医療サービスの向上を図ります。

患者様に安心感を与えるガイダンス機能、寝台上の快適性を改善し不安や苦痛といった検査中のストレスから解放し、一貫性の高い検査を可能にします。

また高速化により限られた検査時間の中で確信度の高い画像診断を行う事ができ、頭部、腹部、整形領域、心臓領域など幅広いニーズに対応を実現します。



Philips社製 Ingenia
1.5T Evolution

MRI検査(核磁気共鳴画像法)とは?

脳、筋、骨格の診断をするときに使用することが多い機器です。

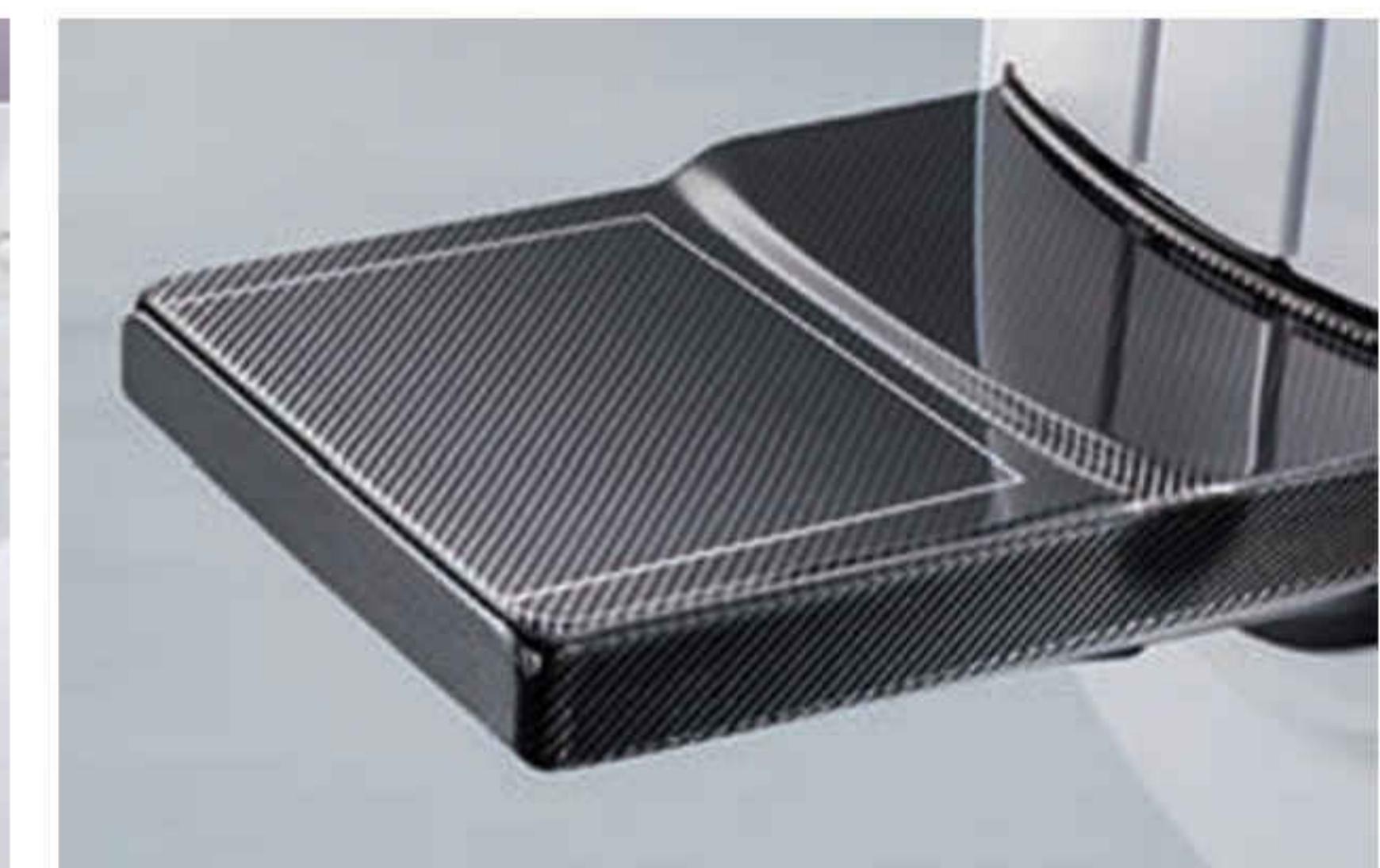
骨によるアーチファクト(散乱線やノイズ)が少なく、骨で囲まれた頭蓋内病変はCTよりもMRIが描出に優れています。腰椎椎間板ヘルニアや靭帯損傷、肉離れ、骨軟部腫瘍、半月板損傷など、骨以外の運動器の異常の評価にも使われます。

MMG(マンモグラフィ) 乳房撮影検査

検査に関わるすべての人へ優しさを…



フラットパネルディテクタ搭載
乳房X線診断装置 Senographe Pristina



こちらは乳房専用の撮影装置です。

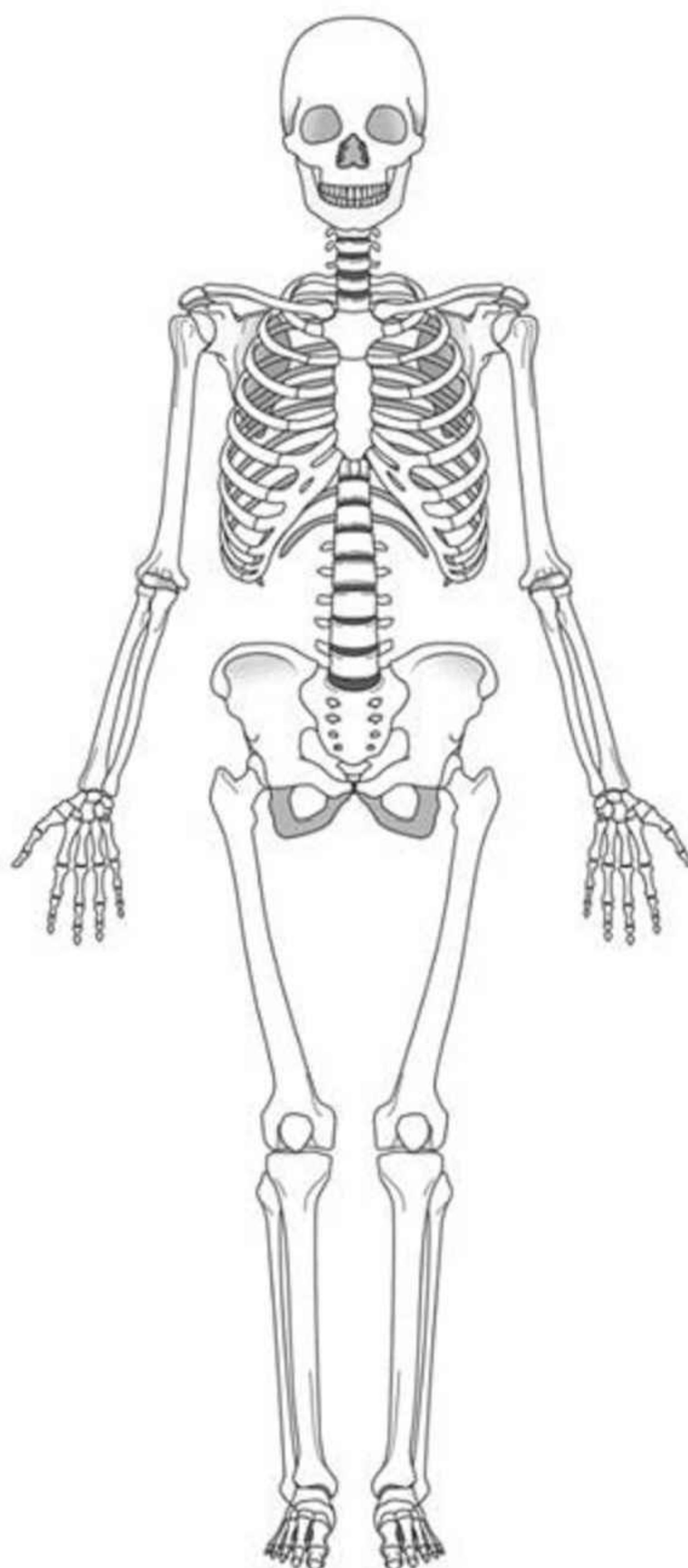
不安を抱えながら検査に臨む女性の緊張を和らげ、リラックスして検査を受けていただけるよう、体が触れる部分の形状は痛みの感じ方を軽減できるよう可能な限り薄く丸みを持たせたデザインを採用しました。

また、フラットパネル型デジタルディテクタを採用することで、少量のX線量で質の高い画像を撮影することができます。

導入レポート



骨密度測定装置



骨密度のピークは20歳頃で、
それ以降は減少していきます。



HOLOGIC社製 HORIZON

定期的な検査をおすすめします。

最速10秒測定…腰椎・大腿骨での測定は10秒

低線量測定…胸部X-Pと同様、もしくはそれ以下の低線量で測定

骨密度は骨の強さを判定するための代表的な指標です。

骨の中のカルシウム量や骨の堅さ、大きさのを調べます若い方や同年代の方の骨密度の平均値と比べて自分が何%であるか表されます。

腰椎と大腿骨の骨密度を測定することにより、早期の骨粗鬆症の診断や治療薬の効果を見るることができます。

お問い合わせは

予防医学センター

※電話予約・受付時間：14:00～16:30

tel.022-771-5117 fax.022-771-5118

新築移転の振り返り グループ病院としての圧倒的且つ、



患者様を移転先へ移送 徳洲会グループ21施設から集結

新病院開院に向けて、大きな山場だったのは、新病院への患者様の移送でした。4/1（金）朝7:30の開始に合わせ、当病院職員と、前日から応援に駆けつけてくれたグループ病院職員が集結。駐車場は、各地域の病院名が書かれた救急車で埋め尽くされました。その光景を見た旧病院の現場責任者の佐藤裕恵看護部長は、「応援に来て頂いた皆様には大変感謝致します。2011年の東日本大震災の時にも、グループ病院からは救援物資を積んだ救急車で長距離をものともせず集結頂きました。今日、震災後に入職した職員は徳洲会グループの強い結束力を改めて感じる日になるのではないか。」と挨拶しました。

オンラインで、2.0km離れた新病院と旧病院合同で朝礼をし、総責任者の佐野憲院長の号令のもと、タイムスケジュールに沿って患者搬送開始。救急車は緊急走行にて約2km先の新病院へ繰々と出発しました。最後に、感染病棟の患者様を感染患者専用のストレッチャーで移送。

各職員がそれぞれの持ち場で力を発揮し、大きなトラブルも無く無事移送を終えました。

強固な連携を改めて認識



旧病院とオンラインで結び、進捗状況を把握し指揮をとる作戦本部。



感染病棟から移送する様子

“頑張った”という事。

実家で17年飼っていた犬(メス)が亡くなりました。ここ数年は常同行動が目立つようになり、半分認知症のようになっていました。一緒に暮らしていた時の散歩係は私だったので、たまに実家へ行くと散歩をせがんできて非常に可愛い存在でした。亡くなった日は、ちょうど動物病院へ連れていく予定でしたが、早朝に実家からメールで「犬が亡くなった。頑張った。」と一文が。会いに行くと、毛布に包まれ、横たわり、眼を開いたまま非常に苦しそうな顔をしていました。最後を迎える2日ぐらい前から意識朦朧で水も飲めない状況だったらしい。

遡る事3日前、会社から家に帰る途中、行く先々で道路工事、やたらと長い信号、謎渋滞、亀のような速度で前を走る車…。結局、家に到着するまでいつもの倍を要しました。何となく家へ帰るのを何かに阻まれているような気がしました。今考えると、犬からの最後に会いにきてほしい、散歩をしにきてほしいというサインだったのかもしれません。もっと何かしてあげられたかもしれない、もっと、マメに病院へ連れて行ってあげれば良かったかなと、後悔が脳裏をめぐりました。そこで、引っかかったのが、メールの「頑張った」という一文です。はたして頑張らせてあげる事ができたのだろうか? 実際、何が原因で死んだのか、病気なのか老衰なのか…。散歩の時、周囲にビクつきながら歩くような大人しかった犬が、夜中何を思ってヒツソリ死んだのか。あんな苦しそうな顔を最後にさせてしまったわけで、しばらく呆然自失となりました。

そんな経験から、医療従事者として病院に来院する方が、少しでも安心してお帰りになれるようなサポートがしっかりとできているだろうかと思い直しています。

その後、本当は個別で火葬してほしかったのですが、むこう一週間は予約でいっぱいとの事で、仕方なく集団火葬にしてもらいました。骨は「8割はごみとして埋め立てて、2割は共同墓地に入れます。」との事。しかも、その2割も集団火葬なので見分けがつかなくなって引き取りができないとの事…。そうか、ごみか…。せちがらい。

帰りに近くの神社に寄り、生まれて初めて絵馬に願い事を書きました。

【あの世へ行っても、楽しく元気に閻魔様に散歩してもらえますように。びえん。】

あ、閻魔様は地獄か…。でも、まあ可愛がってもらえればいいか。



編
後
集
記

新病院になって、どこを通ればどこに出るとか最初の頃は、探検がごとくウロウロしていましたが、ようやく建物の構造に慣れてきました。しかも、病院が広くなった事で歩く距離も増え、運動不足解消につながっています。まさに勿怪の幸い(もっけのさいわい)です。

このように、思いがけない情報などを発信していくように、広報誌も充実していきたいと思います。今後とも宜しく御願い致します。

地域連携室／千葉 英二

基幹型臨床研修病院の役割

当院は、厚生労働省より基幹型臨床研修病院の指定の元、現在は初期研修医2年次3名・1年次2名を受け入れており、臨床研修協力病院・施設と連携した研修プログラムを充実させ、患者さまに対して、安心でより質の高い医療を行える医師を育成してまいります。

基幹型臨床研修病院の責務として、地域における中核的医療機関として更なる充実に努めて参りますので、何卒ご理解、ご協力のほど宜しくお願ひ申し上げます。

2022年(令和4年)5月発行

医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院 広報誌

編集・発行：地域連携室

発行責任者：院長 佐野 憲

印 刷 所：モリタ印刷株式会社



医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院

〒981-3116 宮城県仙台市泉区高玉町9-8

TEL: 022-771-5111(代表) FAX: 022-771-5100

HPアドレス <https://sendai.tokushukai.jp/>



この印刷物は、環境に配慮した植物油インキを使用しています。

●休診日につきましてはホームページでご確認ください、お問い合わせください。